

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第30号 2006年3月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2006年 新年会 盛大に開催

2006年1月9日(月・成人の日)こまばエミナー
スにおいて目黒稲門会新年会が盛大に開催された。
参加者は来賓を含めて78名となり、和気藹々のう
ちにも活気に溢れた新年会となった。

第一部講演会は、中上美代子幹事司会により、先
ず加藤会長の新年の挨拶に続いて講師・粕谷一希氏
のプロフィールの紹介があり、「帝国日本の興亡一
日露戦争からわずか約40年で、なぜ日本は滅びた
のか」と題するお話を伺った。

講演要旨は以下の通りであったが、参加会員には
戦中派が多くじっと聞き入る姿が目についた。

粕谷氏は①沖縄戦で死地に赴く日本陸海軍将兵
の死に様は武士の末裔で見事。②日本社会の体制
崩壊は早く、ペリー来航から幕府崩壊まで15年、満
州帝国は成立から15年で日本帝国と共に崩壊した。
と指摘された上で、本題の「なぜ日本は滅びたの
か」については次の様に話された。

日本は日露戦争の結果南満州鉄道をロシアから譲
渡され、明治39年に南満州鉄道(株)を設立して経営を
始めたが、正にその時から国策の運営を間違えた。
満州に権益を持ったことが日本の命取りになった。
人も国も成功が失敗の原因になる。南満州鉄道維持
のためには職員を含めた在留邦人の安全性確保が必要
なので関東軍を派遣した。その関東軍が東京の中
枢の言うことを聞かなくなり、満州事変、日中事変
を起こして第二次世界大戦へと拡大し、日本帝国の
滅亡へと繋がった。等々興味深いお話であった。

次に、石川智子幹事司会により第二部懇親会が開
かれた。先ず青木英二目黒区長に新年の挨拶を頂い
た後、外岡編集長の発声で乾杯。続いて美味しい
飲物とご馳走に舌鼓を打ちながら歓談し、楽しい時
を過ごした。途中海口カラオケ部会長司会により加
藤会長ほか数人の競演で会は一層盛り上った。

続いて土川副幹事長が各テーブルを巡回し、初参
加の会員並びに新入会員計11名の方々を紹介し、

ご挨拶を頂いた。その内の一人「狂言師」善竹十郎
氏が飛入りで登壇、「やんやんや」の祝い節で座
はなお一層盛り上った。更に同伴ご家族の紹介があ
った後、浅海幹事長より前日のラグビー大学選手
権で我が早稲田が連覇した旨の報告があり、“荒ぶ
る”を熱唱して花を添えた。

終りに、伏見会員のリードで校歌を斉唱、大野副
会長による一本締めで閉会となった。



(出席者 五十音順 敬称略)

[来賓] 青木英二、粕谷一希

[会員] 浅海敏之、芦澤哲男ご夫妻、阿部喜久雄ご夫妻

荒瀬修一郎・ご令嬢、有山勇次郎、安藤嘉昭

石井哲之介、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、

伊藤源喜、伊藤 悠、井村正陽ご夫妻、海口昭治、

大竹一子、大野利幸ご夫妻、大山高明、岡田鍾吾、

小野 満、海沼美智子、加藤栄護ご夫妻、川井信義、

岸 猛弘、木村昭一、紀本直幸、桑野祐光ご夫妻、

郡山弘文、小杉 哲、桜井輝隆、茂山十郎、島田久家、

杉山 弘、関 和平、外岡 明ご夫妻、高田 薫、

高橋 栄一、高橋圭吾、田島清志、田島順一郎ご夫妻、

田畑 繁、千野逸平、土川俊雄、都築秀行、手塚仁雄、

田 哲基、永井純一郎、中上美代子、服部尚彦、

林田雅敏ご夫妻、樋口定廣、藤岡長世、伏見和則、

眞仁田勉ご夫妻、松尾洋一、松岡雅俊、森家一三、

保井 正、八幡和三郎、吉田博行ご夫妻、吉本政治、

渡辺明久、渡辺三郎ご夫妻、松田哲也

(島田 記)

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第29号 2005年12月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2006年 新年会開催のご案内

2006年新年会を1月9日「こまばエミナース」にて開催します。当会発足以来7回目となりますが、回を重ねるごとに盛り上がり、懇親の輪が広がっております。ご家族を含めて多数の皆様のご参加をお待ちしております。特に、これまで参加されたことのない会員の皆様には、この新年会を契機に積極的にご参加下さいませようお願い致します。因に、新年会をはじめ活発に活動する各種部会に参加されている会員の中からは「リタイア後多くの校友と知り合い、これ程楽しく充実した時を過ごせるとは思わなかった」との感想を屢々耳にします。

なお、恒例の第1部講演会は講師に評論家・粕谷一希氏をお招きしてお話を伺うことに致しました。

日時 2006年1月9日(月・祝)

受付開始 15時30分

講演会 16時～17時

演題 帝国日本の興亡ー日露戦争からわず
約40年で、なぜ日本は滅びたのかー

懇親会 17時～19時

会場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5

電話03-3485-1411(代)

井の頭線 駒場東大前駅(下北沢寄)

改札口 徒歩7分)

会費 8,000円(同伴家族5,000円)

当日会場受付にてお支払下さい。

(当日キャンセルの方は会費をご負担
願います。)

☆当日送迎バス(こまばエミナースのマイクロバス)を運行致しますのでご利用下さい。

①目黒駅付近 15時10分発(目黒通り・みづは銀行前付近)

②中目黒駅付近 15時20分発(山手通り・ツタヤ前付近)

☆同封の返信用葉書を12月10日までにご返送下さい。なお、送迎バスご利用の方は葉書に利用番号(①又は②)を明記して下さい。

講師のプロフィール

粕谷 一希 かすや・かずき

昭和・平成期の評論家、編集者 都市出版相談役
昭和5年2月4日生、東京都豊島区出身、別名＝閑居、東京大学法学部政治学科(昭和30年)卒。

同年中央公論社に入社、42年「中央公論社」編集長となる。53年山口昌男の天皇制論文がきっかけで退社。以降評論家として活躍。61年1月東京都文化振興会発行の季刊誌「東京人」創刊と共に編集長。62年同誌を出版する都市出版を設立、社長。その後高橋栄一氏に編集長、同社社長職を譲る。他に雑誌「選択」編集長顧問、「アステイオン」編集長、「外交フォーラム」編集長、国際交流基金運営委員・編集委員・選考委員などもつとめる。著書に「二十歳にして心朽ちたり」「戦後思潮」「河合栄治郎」「東京あととぼろじい」など。

※高橋栄一氏は目黒稲門会々員(昭和54年理)

伝説の編集者



評者 粕谷一希さん

五中央公論社入社、42年「中央公論社」編集長となる。53年山口昌男の天皇制論文がきっかけで退社。以降評論家として活躍。61年1月東京都文化振興会発行の季刊誌「東京人」創刊と共に編集長。62年同誌を出版する都市出版を設立、社長。その後高橋栄一氏に編集長、同社社長職を譲る。他に雑誌「選択」編集長顧問、「アステイオン」編集長、「外交フォーラム」編集長、国際交流基金運営委員・編集委員・選考委員などもつとめる。著書に「二十歳にして心朽ちたり」「戦後思潮」「河合栄治郎」「東京あととぼろじい」など。

人間発見

スクランブル

本年7月25日日本経済新聞に掲載された記事